



教育絵手紙の単元化に向けての一試行： 中学3年選択国語での実践から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2010-09-13 キーワード: 作成者: 神原, 秀紀, 三上, 久代, 佐藤, 有 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00005882

教育絵手紙の単元化に向けての一試行

— 中学3年選択国語での実践から —

神原 秀紀・三上 久代・佐藤 有

北海道教育大学札幌校教育学研究室

Creating Units on *Kyouiku-Etegami*

— From the Viewpoint of Elective 9th-grade Japanese Classes —

KANBARA Hideki, MIKAMI Hisayo and SATO Yu

Department of Education, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education

概 要

選択教科は時数を削減しながらも実施されている。選択教科では生徒の興味関心を高める教材が不可欠である。一方、総合的な学習の時間の礼状書きで身近になった手紙ではあるが、形式面での指導が主となり、手紙の目的である心情を伝える面での指導がなされることが少ない。そこで、手紙の目的である心情を伝える部分の指導に着目し、必ずや生徒の興味関心を引きつけると考えられる絵手紙（指導）を選択国語において実践した。本実践では、毛筆を使用する教育絵手紙の手法を取り入れ試行した。試行1年目は国語科への興味関心を高めること、試行2年目は表現力を高めることをねらった。本稿ではその指導プロセスを報告するとともに、中学校における教育絵手紙の単元化に向けての見通しを提示する。

1. 問題意識

『学習指導要領』の告示によって、選択教科は、縮減の方向が示されているが、移行段階では縮減を視野に入れつつも存続している。生徒の希望によって決定されることを建前としている選択教科ではあるが、実際には第1希望が活かされた生徒だけの集まりではない。また、不得意な教科である国語を得意にしたいという思いで選択する生徒もいて、国語の好きな生徒ばかりが集まっている

わけでもない。そのため、生徒の興味関心を維持することに心を配らなくてはならない。そういった場合には従来からある手法ばかりではなく、生徒の出会ったことのない新しい手法によって、興味関心を高め維持しつつ、指導のねらいを達成することは有効である。一方、手紙は用件を伝える側面と心情を伝える側面を併せ持っている¹⁾。総合的な学習の時間などの礼状書きで身近になった手紙ではあるが、用件を伝える手紙の形式を指導することはあっても、心情を伝えるという点にお

いて取り上げられることは少ない。形式に従って手紙を書かせ、添削して、清書させるという指導が精一杯といったところである。総合的な学習の時間で礼状を送付するにあたっては、送付先から、「すべて同じでおもしろくない。形式的な手紙は不要。生徒が自由に書く手紙にしてほしい。」という要望が出されることも起こっている。心情を伝える手紙の指導の必要性もあるといえる。

以上の点から心情を伝える手紙に着目し、生徒の興味関心を引きつけると思われる毛筆を使う教育絵手紙という手法を取り入れ試行し、単元化の構築をめざそうとした。

2. 教育絵手紙とは何か

(1) 絵手紙の歴史

「絵手紙」という語が最初に現れた書物は、1979（昭和54）年3月30日に発行された『季刊「銀花」1979第三十七号春』（文化出版局刊）である。この雑誌に「小池邦夫の「繪手紙²⁾文學」と題した特集記事が28頁にわたり掲載された。

(2) 教育絵手紙とは何か

教育絵手紙という語は、神原によって2008年3月に初めて提出されたものである。絵手紙は、「絵のある手紙³⁾」と定義されているが、他方、教育絵手紙は、教育者が、被教育者に設定した教育目的を実現するために指導する絵手紙であり、これは、実用性、芸術性、人間教育の三面を有する。絵手紙は、ただの実用ではないが、芸術そのものでもない。絵手紙が、絵手紙の送受信者とは関係のない第三者を感動させるのは、そこにある芸術性と、芸術性を越えた友情、愛情といった、言わば、人と人とのつながりが紙面から読み取れるからであろう。紙面の美しさが、実用と相俟って、読む者に人間のつながりをより感動的に伝えると考えられる。

教師は、教材を選定する際、自らの視点で、目の前の児童生徒をどのような姿へと成長させたいのかを児童生徒像として設定し、その児童生徒像へと成長させるためには、どのような力が不足し

ているのか、どのような力をつけさせたいのかを意図し構想する。被教育者に不足している力、例えば、表現力、観察力、コミュニケーション力、自然を味わう力、感性、他者を思いやる力、集中力などを補え、且つ被教育者がいきいきと集中して活動できる教材として、絵手紙が有効である。教育絵手紙は絵のある手紙にとどまらず、人間教育に重きをおいた絵手紙である点において、その他の絵手紙とは区別される。教育絵手紙の可能性を考えた時、指導方法の詳細を固定することは、教師の現場判断や創造性を狭めることになりかねないため、詳細は指導する教師が定めるものであるという立場をとる。

絵手紙は私信である。だが、ここで取り上げる教育絵手紙は、個人的なつながりに収まらず、送受信の両者にとって何ら関係のない教師にも読まれ、内容を指導される。指導意図によっては他の生徒が読むこともある。この点を絵手紙と比較してみても、絵手紙と教育絵手紙とでは、その内容が異なる。

教育絵手紙は、絵手紙の二大要素である実用性と芸術性に人間教育が付加合一し、確立されたものである。教育というと学校教育だけを思い浮かべがちだが、学校外の社会教育や生涯学習の場（例えば公民館の講座）において、教育目的を実現させるために指導し、書かれた絵手紙も教育絵手紙といえるだろう。

(3) 本実践における教育絵手紙の方法

神原は昨年から三上の所属する中学校、3年選択国語での教育絵手紙指導を、三上とともにチームティーチングで実施している。実践では神原・三上で次の3点を指導の基本と確認した。それは、絵を描く際に用いるモデルは、生徒全員にそれぞれ違う実物の自然物⁴⁾を用意し、自分が対象として描きたいものを描かせること。絵手紙学習シートで「書くこと」の指導を行うこと。互いの絵手紙を交流することである。

①用具と使用紙

本実践では短時間で充実感、達成感を味わわせることで表現意欲を育て、自信を身につけさせる

ことを目的の一つとしたため、紙面の狭いはがきを使用した。また、情動的表現力⁵⁾を育てるために、にじみやかすれを生かし、描線、描画の効果としての動勢⁶⁾をより豊かに表現でき、伝統の筆記具でもある墨と筆、絵手紙の伝統でもある和紙製はがき、絵具については和紙になじむ「顔彩」⁷⁾⁸⁾を用いて彩色させた。「顔彩」は短時間での実施のため色数の多いものを用い混色にかかる時間を省いた。

②絵手紙学習シート

絵手紙面だけでは、生徒と宛てた相手との関係、紙面に書かれた言葉の背景にある心情を深く読み取ることが困難なため、教育絵手紙においては絵手紙書きの後に、絵手紙学習シート⁹⁾への記入を求める。誰に宛てたのか、何を伝えたかったのか、紙面に書かれた言葉はどのような心情の動きを経て選択されたのか等を絵手紙学習シートに文章化させることで、生徒が自らの心情を振り返り、課題をみつけることをねらう。

生徒は言葉を選択し決定するまでに、他者を想い自分をみつめ想いを巡らす体験をしている。絵手紙学習シートは書くことが不得意な生徒の常套句である「書くことがない」という点を解決でき、円滑に文章を書き進めることができる。

③絵手紙の交流

絵手紙学習シートには他者の絵手紙から互いのよさをみつける設問を加え絵手紙の交流を図った。だが、良さを今後に生かす視点からの設問とし集計することは慎んだ。さらに、授業終了後は教育絵手紙の指導を受けていない生徒にむけて、学校祭などで展示する機会を求めた。展示では絵手紙を書いているときの生徒の写真も絵手紙と併せて展示するなどの工夫を加え、教育絵手紙を広く公開するよう心がけた。

(4) 評価について

絵手紙愛好者からは教育絵手紙における評価に疑問の声が上がることもある。しかし、指導目的があれば評価がある。以下について、「絵手紙」「絵手紙学習シート」「授業への参加状況」から総合的に評価する。

- ①目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書こうとしていたか。
- ②構成を工夫して読み手に理解してもらえ絵手紙を書いていたか。
- ③他者の絵手紙のよさをみつけ、自分の表現に役立てようとしたか。

3. 実践にあたって

(1) 中学校3年選択国語

中学3年選択国語発展コースでは、表現力・思考力の向上をめざし、「読むこと」と「書くこと」を中心に実施した。教育絵手紙のほか、わりばし（で書く）書道、看図作文¹⁰⁾、NIE（「教育に新聞を」）を取り上げた。

(2) 教育絵手紙のねらいと方法

試行1年目は三上の所属する前任校において、生徒の興味関心を高めることを目的として教育絵手紙を取り入れた。試行2年目は前任校での成果を踏まえ、転勤後、現任校において、他者への思いを表出させ、効果的に表現することをねらいとし、実施した。

ねらいを達成するため、以下の方法をとった。

- ①手紙で伝えることのできる様々な感情の例をあらかじめプリントで生徒に示し、伝達意欲を刺激した。
- ②伝達内容については、個別に教師が生徒にインタビューをして、文の組み立てや生徒の思いにふさわしい語彙の選定について助言をする指導を行った。

これを以下、インタビュー指導と表記する。

インタビュー指導とは、教師が生徒にインタビューしながら生徒から伝達内容を引き出し、支援していく指導方法である。個別で行う。生徒が教師から受ける圧迫感を緩和するため、指導の際は対座するのではなく、横並びに座る。生徒は教師と向き合っていないながらも、心中では絵手紙を差し出す相手と向き合えるような支援を試みた。

「この絵手紙を大切にしてくれる人に宛てなさい。」「普段はなかなか面と向かって伝えられない

ことをこの機会に絵手紙に託して伝えなさい。」などの助言をし、生徒の素直さを引き出す指導を試みる。インタビュー指導は普段の学校生活ではみえにくい生徒の内面が吐露され、教師にとっても生徒理解の場となることを期待した。

(3) 実践の全体計画

実践の概要は以下である。

- 第1時 ゲストティーチャーの紹介
絵手紙の説明
消しゴム印¹¹⁾の製作
- 第2時 絵描き
- 第3時 手紙文書き
インタビュー指導
仕上げ(押印)
- 第4時 絵手紙学習シートの記入

第1時と第2時には、神原がゲストティーチャーとして加わり、三上とともにチームティーチングによる指導を行った。この2時間は神原が主となって指導した。神原は同時間帯に実施されている他の教師の選択国語において、教育絵手紙指導をチームティーチングで行うため、第3時と第4時は三上が一人で指導した。

第2時は美術室、他の時間は普通教室を使用した。

絵手紙学習シートのアンケート項目から絵手紙についての生徒のおおよその傾向をとらえた。

4. 授業の展開

授業の主な展開を次に示す。

(1) 第1時

ゲストティーチャーとして神原を紹介した。神原が主となって授業を展開した。

4～5人のグループにわけ絵手紙、絵手紙書きに使用する用具を配布し、今後の授業の流れとともに絵手紙について説明した。

絵手紙についての説明のポイントは大きく二つである。一つは手紙で伝えられる様々な感情をあらかじめ準備した絵手紙文構想シート¹²⁾で説明した。その後、絵手紙とは何かという視点で、絵

ハガキといわず絵手紙という理由、絵手紙の簡単な歴史、絵手紙をかくにあたっての心構えを説明した。二つめは筆の持ち方と表現効果の違いである。絵手紙をかくときの筆の持ち方(筆の頂部を軽く抓むように持つ方法。抓頂法¹³⁾)による表現効果の違いがどのようなものかを、生徒の絵手紙二通を比較して説明した。中学校国語科書写から高等学校芸術書道の関連を意識した。

次に消しゴム印の製作をした。消しゴム印は自分の名前のはじめの一字を平仮名で彫る陰刻印を指示した。絵手紙が試合に負けた内容の手紙であった場合、名前が「勝」という漢字で押印された場合を例示し、平仮名にする理由を表音文字と表意文字の違いにふれて説明した。完成した印はグループごと一つの封筒に入れ、封筒に印を押しその横に名前を書いて回収した。

(2) 第2時

この時間も神原が主として指導した。

各テーブルに置かれた自然物のモデルを選び、そのモデルのある座席で絵手紙をかいた。

自然物のモデルのうしろに用紙をあてて構図を決める。筆の持ち方、着色の仕方を簡単に説明したあと実際にかいた。筆の持ち方は抓頂法に挑戦するように指導した。自然物のモデルは全員に違うものを準備した。準備した自然物モデルのいくつかをあげる。

アマガエル、カブトムシ、ヒマワリ、ケイトウ、ユリ、カーネーション、かすみ草、サクランボ、イチゴ、グレープフルーツ、スイカ、米ナス、京ニンジン、辛み大根、パプリカ、さやエンドウ、ササゲ、アジの干物、スルメ。

(3) 第3時

この時間から三上が一人で指導した。

絵と文章のバランスを考え、文章をどう書くかを絵手紙文構想シートに下書きした。下書きのできた順に提出を求め、その場で一人ずつにインタビュー指導を試みた。ほとんどの生徒が「ありがとう」「感謝します」など何についてのお礼や感謝なのかがわからないものになっていた。何についてどんな思いで書いたのかを問いかけながら、

具体的な気持ちを表す文章になるように助言した。目上の人に対する敬語の使い方などについても配慮を求めた。助言を受ける前後の時間を利用して、絵手紙学習シート「絵手紙をかくにあたって心中に去来したこと」の記入を求めた。

(4) 第4時

前時間に書いた絵手紙文構想シートをもとに文章を清書する。絵手紙文構想シートに書いたものを変更することも認めた。清書には筆、筆ペンなどを用いた。鉛筆による下書きは禁じた。最後に消しゴム印を押し完成させる。その後、絵手紙学習シートで絵手紙を振り返った。

5. 授業を終えての考察

(1) 絵手紙学習シートにみる生徒の反応

①アンケート結果

絵手紙学習シートの設問からいくつかを抽出して以下にあげる。集計にあたっては生徒の回答項目を「肯定」、「否定」、「どちらでもない」に分類しなおした。なお、絵手紙学習シートは小論の末尾に添付する。

〈有効回答数 29人〉

1. かいてみてどう感じましたか。
肯定 26人 否定 1人 無回答 2人
2. 描線や筆文字は爪頂法を用いてかくことができたか。
肯定 29人 否定 0
3. 描線や筆文字を書く時に、ゆっくりと運ぶことができましたか。
肯定 28人 否定 1人
4. 絵の色塗りについて、光っている部分を塗り残す等、モデルをよく観察してぬることができましたか。
肯定 25人 否定 4人
5. 和紙の特長であるにじみを活用できましたか。
肯定 27人 否定 2人
6. 手紙を送る相手に対し、思いやりの心ややさしい心を育てることができたと感じましたか。
肯定 22人 否定 4人

肯定でも否定でもない 3人

7. 素直になれたと感じましたか。

肯定 21人 否定 7人

肯定でも否定でもない 1人

8. 気持ちを落ち着かせることができたと感じましたか。

肯定 21人 否定 4人

肯定でも否定でもない 4人

9. 集中力や忍耐力を養えたと感じましたか。

肯定 21人 否定 4人

肯定でも否定でもない 4人

10. 下書きをしないでかくことで、失敗をおそれない勇気を得たと感じましたか。

肯定 19人 否定 2人

肯定でも否定でもない 8人

11. 自分を見つめるよい機会になったと感じましたか。

肯定 17人 否定 3人

肯定でも否定でもない 9人

12. 機会があれば、また絵手紙をかいてみたいと感じましたか。

肯定 20人 否定 3人

肯定でも否定でもない 6人

13. 送る相手に気持ちが伝わる仕上がりになったと感じましたか。

肯定 21人 否定 1人

肯定でも否定でもない 7人

絵手紙の技術的な面についての設問2～5の回答では、90%を超える生徒が肯定的にとらえており、こちらのねらいはほぼ伝わったととらえられるだろう。色の塗り方については国語で扱っていることもあり、他の部分に比べて指導者側があまり積極的に指導しなかったところが、回答となつてあらわれているといえるだろう。

それに比較すると設問6～12の情意面については肯定が70%を超えているが、やや低い傾向がみられる。

今回の主たる目的である他者への思いを表出させ、それを効果的に伝える方法を考えさせることについては、昨年の実践との比較を念頭に置き、

昨年と同じ絵手紙学習シートを用いたため設問がない。この部分については選択教科最終日に生徒に確認することにした。

②昨年度との比較

昨年と今年度における生徒の回答の違いを以下にあげる。表の設問の番号は前ページにあげた設問の番号を示している。

設問番号	本 実 践 (2009度) 回答数29人			前 任 校 (2008度) 回答数27人		
	肯 定	否 定		肯 定	否 定	
1	26	1*		27	0	
2	29	0		24	3	
3	28	1		25	2	
4	25	4		26	1	
5	27	2		17	10	
	肯定	否定	どちらでもない	肯定	否定	どちらでもない
6	22	4	3	21	1	5
7	21	7	1	21	1	5
8	21	4	4	23	0	4
9	21	4	4	19	0	8
10	19	2	8	13	5	9
11	17	3	9	18	2	7
12	20	3	6	25	0	2
13	21	1	7	19	1	7

*無回答2

今年度は設問5の回答を肯定とする者が昨年度より多く、否定が昨年よりも減っている。

情意面の反応は昨年度とやや異なっている。設問10は今年度の肯定が昨年度と比べて多い。設問12は今年度の実践では肯定が減っている。否定が0から3人に増えている。

③昨年度の違いと生徒の反応

昨年度の実践と今年度の実践の違いは次である。

- 1) 今年度は絵手紙用紙をにじみのでやすいものに変更した。昨年度はあまりにじまないものを使用した。
- 2) 今年度は1・2時間のみ神原と三上がチームティーチングで実施した。昨年度は

神原と三上が全時間チームティーチングで実施した。

- 3) 生徒の実態、選択国語実施時期などが昨年度と違う。

- 4) 今年度は絵手紙の文章についてインタビュー指導を実施した。昨年度は実施していない。

1) の違いは設問5の回答と対応していると考えられる。情意面の生徒の反応は2) 3) 4) に関連しているのかもしれない。対象とした生徒、時期、内容とも昨年度とは異なっているため、安易に比較して論じることとはできないが、これらの違いについては今後の実践の積み重ねの中で検討していきたい。

④絵手紙学習シートにみる生徒の思い

絵手紙学習シートには、「絵手紙をかくにあたり去来した思い」を書く設問がある。その回答から、特徴的なもののいくつかを網掛けで示す。

男子1

今まではお父さんの仕事のこととかは気にしていなかったけど、絵手紙を書いたら、どんな仕事をやっているのか、食事はどうしているのか、などと興味がわいてきました。今度会ったら聞いてみようと思います。

あと、自分の将来のことも少しずつ考えていこうと思いました。

男子2

ぼくは、この絵手紙を書く前は、絵手紙を書くことに対して楽しみにしていましたが、実際やってみるとあんまりおもしろくなかったし、やってきたときの記憶もあまり残っていない状態になりました。なので、どんなことでも楽しいと感じられるようになりたいです。

女子1

私は今回、モデルを選ぶ前から、母に「禁煙して欲しい」という思いを絵手紙で表現したいと思っていました。だから、モデルはフレッシュ感のあるグレープフルーツにしました。去年、私の家では母のガン騒動がありました。ガンセンターまで行って出た結果はガンではなかったのですが、

母はその後まことりずに喫煙を続けているので、病気になる前健康なうちに、ぜひ禁煙して欲しいと思い、この手紙を書きました¹⁴⁾。

女子2

私はこの絵手紙を書く時に思ったことは、普段伝えられない言葉を伝えようということです。面と向かって言えないようなことを伝えられるチャンスだと思いました。いつも自分たちのために頑張っていることに、好きなものを送ってくれることに対する感謝の気持ちを精一杯表現できるように言葉を選びました。伝わるか伝わらないかわからないけど、自分の気持ちをこめるかどうかで作品の出来はかわると思いました。

女子3

手紙を書く機会なんてそうあることではないので、今回は貴重な体験ができました。現代では普通の手紙も書くことが少なくなり、少しさびしいです。コンピュータに文字を書かせて相手に伝えるより、自分の文字で相手に伝えるほうがなんとなく心境をくわしく伝えてくれそうなのでいいと思います。このまま手紙の文化が無くなるのは悲しいので、この機会に手紙を書くようにしたいと思います。

(2) インタビュー指導

今年度の絵手紙では、文章を一人ずつ助言し添削するインタビュー指導を実施した。インタビュー指導では、指導者との対話によって絵手紙に書きたい内容を確認して表現を選んでいく様子がみられた。だが、絵手紙学習シートに設問がなかったため、生徒の反応をはっきりさせることができなかった。そこで、選択国語最終日に生徒に確認した。インタビュー指導が文章を書くことに効果があったとした生徒（肯定）は22人、効果がなかった（否定）とした生徒は1人、どちらともいえないとした（どちらでもない）生徒は4人であった。インタビュー指導により、絵手紙に書かれた文章は昨年と比較して詳しくなり、文章が長くなった生徒が多い。反面、短い言葉でズバリと語られる絵手紙のよさが薄らいだ感じがしないので

もない。

6. 成 果

本実践における教育絵手紙の方法に照らしての成果は次のようなものであった。

①テーマを設定せず、宛てる相手や文意を生徒に決めさせ、作品としてではなく、実用の絵手紙を書くように導いた結果、生徒はそれぞれの動機を胸に、真剣に取り組んだ。これは、実用の効用と考えられる。

②絵を描く際に用いるモデルは、生徒全員にそれぞれ違う実物の自然物を用意し、自分が対象として描きたいものを描かせた結果、生徒が他と比較することなくのびのびと集中して絵手紙かきに取り組んだ。また、果物を割って構図を決めたり、花びらに触れて筋模様を確かめたりして、描線や描画の際の筆の運動方向を定めるのに役立てる等、工夫して描き取る姿が確認できた。

③絵手紙学習シートで「書くこと」の指導を行った結果、ハガキ面だけでは、読み取れない生徒の心情を書かせることができた。作文欄では、普段は、作文が渉らない生徒にも、無理なく心情を作文させることができた。

④互いの絵手紙を交流させた結果、他者の絵手紙から積極的に学ぼうとする姿勢が確認できた。絵手紙学習シート内の、「クラスメイトの中でいいなと感じた絵手紙を2通選び、その理由を書いて下さい。」という項目では、受信者でない自分がなぜいいなと感じるのかを考えさせたことで、絵の構図や文章の配置、言葉の一語一語について、いいなと思う理由を自己分析させ、書かせることができた。

⑤インタビュー指導では、普段の面談指導等ではなかなか話させることが難しい生徒の現在の心境¹⁵⁾や心の状態が吐露された。心情を正確に伝えたい生徒は、より適切な言葉を探しているため、教師の助言に素直に耳を傾けた。生徒の素直さを引き出せたと同時に、普段の学校生活ではみえにくい生徒の内面が吐露され、教師にとっては

生徒理解の場となった。

7. 教育絵手紙の可能性

①国語科における可能性

『中学校学習指導要領国語』¹⁶⁾では2年生の「書くこと」の言語活動例として、「社会生活に必要な手紙を書くこと。」があげられており、中学2年生で教育絵手紙の指導が妥当と考えられる。また、使用している2年生国語の教科書にも手紙に関する教材が掲載されている。

②書写での可能性

高等学校では芸術として扱われる書写であるが、中学校では国語科〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で扱われる。

一般的な絵手紙のイメージは毛筆書写を思わせる。だが、毛筆書写だけではなく硬筆書写という点からも絵手紙の可能性はあるだろう。文章が長くなれば、筆記具との関連から毛筆より硬筆で表現する生徒が多い。書写の観点で文字を書く指導することで絵手紙の可能性はさらに広げることができると思われる。関連する学習指導要領の項目を次に網掛けで示す。

中学1年生「書写に関する事項」(2)

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

中学2年生「書写に関する事項」(2)

イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

中学3年生「書写に関する事項」(2)

ア 身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。

『中学校学習指導要領解説 国語編』¹⁷⁾では各学年の書写に関する事項について解説を加えている。

その中で、中学2年生「書写に関する事項」(2)イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。については次のように解説している。

絵手紙に関連していると思われる部分にアン

ダーラインを施し、引用部分を網掛けで示す。

「目的や必要に応じて」とは、国語科をはじめとする各教科等の学習や社会生活における文字を書く目的や必要に応じて、その書体や筆記具を選択しつつ効果的な文字の書き方を工夫することである。メモやノート、届け出の書類、願書、会議録、ポスターや掲示物、はがきや封書といった様々な書式に合わせて、適切な字形や書体、筆記具で書くことを求めている。

絵手紙で指導可能な項目といえる。さらに、中学3年生の書写に関する事項(2)ア 身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。については次のように示されている。

絵手紙に関連していると思われる部分にアンダーラインを施し、引用部分を網掛けで示す。

「身の回りの多様な文字に関心を持ち」とは、手書き文字だけでなく、活字やイラスト文字などの社会生活で使用されている多様な書体や字形の文字や、それらの文字の使われ方などに関心を持つことである。(中略)

多様な文字の在り方に関心をもたせることで、文字の芸術性に関心を向ける素地を養い、高等学校芸術書道への発展性も見通している。

高等学校芸術への発展性という点からとらえた場合も絵手紙指導の可能性はあると思われる。

③道徳における可能性

国語科の指導計画作成と内容の取扱いでは道徳との関連を考慮することが求められている。

教育絵手紙のインタビュー指導では、「この絵手紙を大切にしてくれる人に宛てなさい。」「普段はなかなか面と向かって伝えられないことをこの機会に絵手紙に託して伝えなさい。」などの助言を行ったことは前述した。これらの指導は第1時においても行っている。できあがった絵手紙や「心中に去来したこと」を書く文章には、感謝したり、お礼を述べたり、他を思いやったりする気持ちを表す文章がほとんどをしめる。

たとえば、「学習シートにみる生徒の思い」で示した男子1は、はじめはなかなか買ってもらえ

ない携帯電話をねだる絵手紙をかくつもりだった。だが、絵手紙をかきすすめるうちにねだる相手の単身赴任の父親の生活に思いをはせる。そして、単身赴任が仕事のためであることに気づき、自分の将来の仕事を考えようという気持ちに近づいている。

このようにこの2年間の実践では、絵手紙により、道徳で求める人間としてのあるべき姿を自然に引き出すことができていたことがほとんどであった。そこで、以下に教育絵手紙で無理なく指導することができていた道徳の項目を、網掛けで示す。

第2 内容

2 主として他の人とのかかわりに関すること。

(1)礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。

(2)温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりの心をもつ。

(3)友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち互いに励まし合い、高めあう。

(6)多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること(1)自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

(6)父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

8. 単元化にむけて

『現代の国語3』平成17(2005)年(三省堂)では、絵手紙が単元化されており、『現代の国語3』学習指導書「話すこと・聞くこと・」「書くこと」学習材解説編指導書には、「書くこと領

域に位置づけられる学習材である。」と記述されている。

現行使用している教科書『伝え合う言葉 中学国語』(教育出版)では、2年生に『旅の便りを出そう』随筆 2編 『メール』『手紙について』、3年生に『はがき・手紙の文化を見直そう』という教材があり、中学2年生から手紙についてふれられている。

3年生の『はがき・手紙の文化を見直そう』には、「最近では、はがきに自作の絵と文を書いた「絵手紙」の人気も高まっている。」という一文もみられる。

2年間の試行から教育絵手紙の効果に着目する価値があり、教育絵手紙を含んだ手紙の指導は、他の教材との関連を考えたうえで、指導の見通しを持つ必要があると思われた。そこで、次に中学校3年間における単元化の見通しを以下に示す。

〈 〉内は時数を示す。

中学1年 国語〔書写〕 色紙〈3〉

・色紙に書く。

国語 教科書『花の詩画集』〈1〉

・絵のある詩を味わう。

・詩画の方法を知る。

中学2年 国語 教科書 随筆 2編 〈3〉

『メール』『手紙について』

・メールや手紙について考える。

国語 教科書『旅の便りを出そう』

教育絵手紙〈5〉

・感動を絵手紙にかく。

中学3年 国語 わりばし(で書く)書道〈3〉

・筆記用具を工夫して詩を表現する。

国語 教科書 『はがき・手紙の文化を見直そう』

教育絵手紙〈4〉

・手紙の目的を考え、絵手紙を工夫してかく。

9. 今後にむけての課題

昨年度から2年にわたり実践を重ねてきた。その結果、教育絵手紙では生徒が興味関心を持ち取り組む様子がみられた。その過程で、表現を効果的にするためインタビュー指導をしたところ、他者への思いを素直に表出するとともに、生徒がリアリティーをもって効果的に表現する方法を考えることができている様子がとらえられた。今後は実践を重ねながら成果を明確にしつつ、3年間を見とおした単元化の実現にむけていきたい。その過程で効果的な単元構成をさらに考えていきたい。

10. 謝 辞

本論文は神原が主となって三上とともに、三上の所属する中学校で実践したものを、二人でまとめたものである。論文を書くにあたっては、神原が大学院生であったときに指導をしてくださった北海道教育大学大学院教授 佐藤有 氏に多くのご助言をいただきました。この場をお借りして心からお礼を申し上げます。

【注および引用文献等】

- 1) 高村薫「手紙について」『伝え合う言葉 中学2年』教育出版平成17(2005)年
- 2) 繪手紙
この時、37歳の小池邦夫(以下 小池)の肩書きは、現在の「絵手紙創始者」や「絵手紙作家」ではなく、「手紙文学に情熱を捧げる人」であった。それ以前にも、著名な文学者らが、絵のある手紙をかいてはいるが、絵手紙という語を発案し、絵手紙の普及に尽力したのは、現在絵手紙作家として活動を続けている小池邦夫である。小池が1979年以降、絵手紙の普及に尽力した結果、絵手紙人口は増え続けた。1996年に発足した日本絵手紙協会は、2007年現在の絵手紙人口は、100万～300万人いると推測している。2007年12月6日、インターネットの大手検索エンジンで「絵手紙」を検索した結果、220,000件が表示されたのに対して、2009年7月6日には、同じ条件で6,650,000件が表示された。また、日本絵手紙協会が、協会創立15周年の記念として、2月3

日を「絵手紙の日にしよう」と日本記念日協会に申請し、認定されたことから、絵手紙人口は、今なお増え続けていることがうかがえる。絵手紙には年齢相応な余暇活動としての側面があり、公民館等でのサークル活動としても定着してきたと考えられる。

- 3) 小池邦夫『絵手紙入門』平成10(1998)年日貿出版社
- 4) 本実践では五感への刺激を重視するため、絵のモデルには絵や写真、疑似品を用いず、実物の自然物を用いる。モデルが与える五感への刺激と、自らが選んだ相手に意思を伝えることの相互作用で、表現意欲、伝達意欲を誘発し、描かせ、書かせることが教育目的の一つである点から、モデルに絵や写真、疑似品を用いることは好ましくないと感じるからである。例えば、実物の自然物を用いた場合は、絵の構図や色遣いを描き手が定めるが、既存の絵や写真をモデルとした場合には、構図、色遣いは既存の絵や写真の作者が定めたものであって、絵手紙の書き手が定めたものではない。また、実物モデルであれば、視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚を働かせて描き取ることや、魚の口を開けて中を覗いてみたり、果物を割ってみたりする等、モデルへの働きかけが可能だが、絵や写真、疑似品においては、これらをかなえることはできない。自然物を描いた絵は、人工物を描いたそれよりも、生命力(芸術性)を表現しやすいというのも、実物の自然物を提示する理由の一つである。また、生徒の比較意識を軽減し、主体性、積極性を助けるためにも描かせるモデルは、参加生徒分それぞれ違ったものを提示するのが望ましい。同じものを描かせた場合、生徒は隣の生徒の絵や言葉を気にかけるあまり、主体的な活動を妨げられる場合がある。参加生徒分それぞれ違ったものを用意し、選ばせることは、比較される意識を軽減するだけではなく、模倣意識を生じさせない効用もある。のびのびと集中して表現活動を行わせることが可能になる。しかし、実物モデルと伝える内容の関連付けは積極的に求めない。五感への刺激が文となって自然に現れたときにのみ指導するにとどめた。それは、何らかの刺激を受けても、それをあえて表現していない生徒に、関連を表現することを求めることで、画一的な言い回し(たとえば実物モデルを例示して、「○○のように」となることを避けるためである。
- 5) 再現的表現力に対して、味わい深さを、伝え感じさせる表現力(神原の造語)
- 6) ムーブマン Movement (仏)造形原理用語「動勢。対象の動き、または描法によってつくり出される絵画効果としての動きをいう。線や筆触の流動感、速度、構図の配置などによって、実際には動かない画面から、鑑賞者の運動感覚に刺激を与え動きを感じさせる。」森田恒之2000『表現絵画のしくみ 技法と画材の小百科』(美術出版社)

- 7) 「^{がんさい}顔彩」水で溶くだけで簡単に使える水絵具。透明感のある美しい色の絵の具。色合いは、日本画らしい落ち着いたもの。顔彩は、顔料にアラビアゴムなどの媒材を混ぜて容器に流し込んで固めたもの。
京都造形芸術大学『美と創作シリーズ 日本画を学ぶ①』平成10(1998)年 角川書店
- 8) 水干絵の具や岩絵の具の場合のように、膠のような接着剤はいらない。大野倣高『草花を描く 日本画』昭和61(1986)年(株)マコー社
- 9) 絵手紙学習シート 本稿末に添付
- 10) 鹿内信善『やる気をひきだす看図作文の授業 創造的[読み書き]の理論と実践』平成15(2003)年 春風社
- 11) 注14) に押されている印
- 12) 絵手紙文構想シート 本稿末に添付
- 13) 抓頂法とは、かき手の心の動きを、毛筆の墨線によって紙面に描写することを実現するため、筆軸の頂部を軽く抓むようにして持ち、穂先数本を用いて、ゆっくりと描線、描画する指法である。神原秀紀『絵手紙の教育力に関する一考察』平成19年度(2008年3月) 修士論文



〈写真〉 [抓頂法の筆の持ち方]

14) 女子1の絵手紙



- 15) 心を取り巻き、それと関係を持って、直接、間接の影響を与えている外界。(神原の造語)
- 16) 文部科学省『中学校学習指導要領』平成20(2008)年告示
- 17) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』平成20(2008)年9月東洋館出版社

(神原 秀紀 北海道立札幌北高等学校)
(三上 久代 札幌市立平岡中央中学校)
(佐藤 有 札幌校教授)